東本願寺は烏丸六条の南にあり、宗旨は親鸞上人の弘法にして、開山より第十一世顕如上人の嫡子教如上人、慶長七年関東の台命を蒙りて六町四方の寺地を賜り、新に御堂をいとなみ、東本願寺御門跡と称し、宗祖より十二世の血脈を相続す。本堂は親鸞上人自作の像を安置す。〔坐像にして長貳尺五寸余なり、此尊像はじめは上州厩橋妙安寺にあり、台命によつて当寺に遷す〕脇壇には前住大僧正其外歴代の画影を安ず、余間には九字十字の名号をかくる、開山聖人の筆なり。阿弥陀堂の本尊阿弥陀仏は安阿弥の作なり。〔立像にして長三尺許〕脇壇には聖徳太子法然上人其外三朝六高僧の画像を安ず。大門〔本堂の前にあり、階上に阿弥陀仏の坐像を安置す〕菊門〔大門の北にあり、初は秀吉公の壮観にして伏見城にあり、双の扉に菊花の大門あり、金を鏤花飾をなして洛中の奇観なり〕阿弥陀堂の門〔これも伏見城よりこゝにうつす、世の人日暮の門といふ〕撞鐘堂〔伏見城中の井戸屋形なりといふ〕玄関の式台〔楠にして長七間幅三間の一枚板なり〕寝殿〔大広間と号す、画は山楽の筆なり〕小寝殿〔小広間ともいふ、画は狩野山雪の筆なり〕白書院黒書院の間に鷺の間あり、能舞台は集会堂の西にあり、其外殿閣堂舎等花飾をつくして他境に勝れり、繁によつてこれを略す。

東殿〔今いふ百間屋鋪なり〕台命によつて増地を賜り、東本願寺の別館とす。旧此所は河原院の旧蹟にして、池辺の出島に九重塔あり、是則融大臣の古墳なり。〔いにしへ此所に融公の社あり、境内の隣地下寺町万年寺にうつすなりといふ〕池水は東の高瀬川より流れて常に溶々たり、水戸を獅子口といふ。臨池殿の庭は小堀遠州の好なり、風光奇々と

して真妙なり。